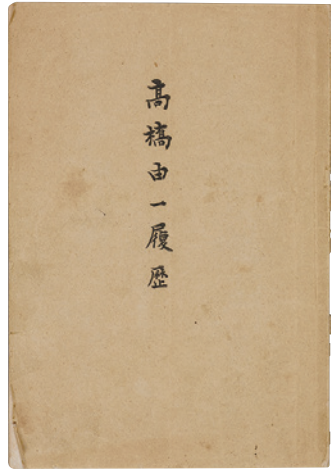


— 同時開催 —  
コレクション展  
「木茂先生と負翼童子」  
Mokumo Sensei and Cupid:  
Aoki Shigeru Library From the Museum Collection

自らを「書痴」と称し、愛書家にして愛煙家であった自称「木茂」こと美術史家青木茂。幕末明治の洋画家高橋由一研究の第一人者として長年にわたって研究を重ねた青木が蒐集し、当館に譲られた蔵書「青木文庫」は一万冊に及びます。本展では、今後の美術史研究に大きな遺産となる「青木文庫」の中の明治期の貴重な資料を中心に、高橋由一《江の島図》、本多錦吉郎《相州鎌倉由井濱》など、既存の収蔵品をあわせて展示。また、青木の調査によって明らかとなった、高橋由一が来日したイタリア人伯爵から贈られた油彩画《負翼童子図》（作者不詳）が、修復を終えて初公開となります。



《負翼童子図》油彩・カンヴァス 当館蔵



『高橋由一履歴』1892年 当館蔵（青木文庫）



北海道にて、2017年 撮影：古石紫織



青木茂著書



木村莊八《大同石佛寺》「第175圖、第一窟アーチ見取圖」原画）1920年  
水彩、鉛筆・紙 当館蔵（青木文庫）

アクセス  
公共交通＝JR横須賀線「逗子」駅前（3番のりば）または京浜急行「逗子・葉山」駅前（南口2番のりば）から京浜急行バス「逗11」または「逗12」系統（海岸回り・葉山行）で「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車（所要約20分）  
車＝横浜横須賀道路「逗子IC」または「横須賀IC」から7～8km

葉山館駐車場（有料）のご案内  
営業時間＝8:30～18:00（入庫は16:30まで）  
駐車料金（1時間／追加は30分毎に加算）＝普通車400円、大型車1,200円 ＊本展観覧券をお持ちの方は1時間無料です。＊レストランやショップで2,000円以上ご利用いただいた方は1時間無料（併用で最大2時間）となります。＊貸切バス等（定員11名以上の車）でご来館の場合、駐車場の事前予約および前面道路の通行許可申請が15日前までに必要です。



高橋由一《江の島図》1876～77年 油彩・カンヴァス 当館蔵

会場＝神奈川県立近代美術館 葉山  
展示室3b・4  
観覧料＝一般250円／  
20歳未満・学生150円／  
65歳以上100円／高校生100円  
＊中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方（および介助者原則1名）は無料です。

[Admission] Adults: 250 yen /  
Under 20 and Students: 150 yen /  
65 and over: 100 yen /  
High School Students: 100 yen /  
Junior High School Students and under 16: Free

関連プログラムは美術館ウェブサイトでご確認ください。  
Please check the museum's website for related programs.

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1  
2208-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa 240-0111  
Tel. 046-875-2800 Fax. 046-875-2968  
www.moma.pref.kanagawa.jp ✉@KanagawaMoMA

〔同時開催〕鎌倉別館 Tel. 0467-22-5000  
「イメージと記号—1960年代の美術を読みなおす」  
2023年12月9日（土）—2024年2月12日（月）  
「小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ」  
2024年2月23日（金・祝）—5月6日（月）

# 芥川龍之介と美の世界

## 二人の先達

### 夏目漱石、菅虎雄

#### Akutagawa Ryunosuke and His Aesthetics

#### Two Forerunners—Natsume Soseki and Suga Torao

2024.2.10〔土〕—4.7〔日〕 神奈川県立近代美術館 葉山  
The Museum of Modern Art, Hayama

（展示替えあり 1期＝2月10日～3月10日、2期＝3月12日～4月7日）開館時間＝9:30～17:00（入館は16:30まで）休館日＝月曜日（2月12日を除く）  
主催＝神奈川県立近代美術館 観覧料＝一般1,200円／20歳未満・学生1,050円／65歳以上600円／高校生100円 ＊中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方（および介助者原則1名）は無料です。＊ファミリー・コミュニケーションの日＝毎月第1日曜日は、18歳未満のお子様連れのご家族は割引料金（65歳以上の方を除く）でご覧いただけます。その他の各種割引はお問い合わせください。＊最新情報は美術館ウェブサイトか電話でご確認ください。  
[Date] Saturday, February 10—Sunday, April 7, 2024 [Hours] 9:30—17:00 (Last admission at 16:30) [Closed] Mondays (except February 12) [Admission] Adults: 1,200 yen / Under 20 and Students: 1,050 yen / 65 and over: 600 yen / High School Students: 100 yen / Junior High School Students and under 16: Free ＊ Please check our website for the latest information. Organized by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama  
上＝芥川龍之介「或阿呆の一生 三十四 色彩」草稿 1927年 山梨県立文学館 ＊1期／上右＝芥川龍之介《水虎晩帰図》（部分）紙本墨画 日本近代文学館／中右＝菅虎雄 画像出典「陵雲無為 菅虎雄先生遺墨法帖」（1927年）より／中中央＝芥川龍之介 画像出典「芥川龍之介全集」（1927年、新潮社）より／中左＝夏目漱石 画像出典「漱石の思ひ出」（1928年、改造社）より



# 芥川龍之介と美の世界

## 二人の先達―夏目漱石、菅虎雄

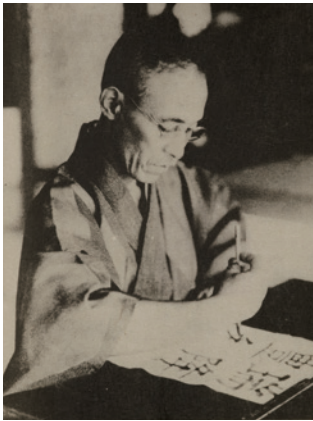
「羅生門」「鼻」「蜘蛛の糸」をはじめとする数々の名作を世に送り出し、今もなお幅広い世代に愛される小説家芥川龍之介。芥川は作品や書簡等においてしばしば美術に言及し、その文学と美術への関心の高さは、彼が師と仰いだ夏目漱石と共通しています。一方、菅虎雄は、芥川の第一高等学校時代のドイツ語の教師であるとともに、漱石を禅に導いた人物でした。本展では、芥川の遺稿である「或阿呆の一生」を導入に、芥川、漱石、菅の三人の交流関係に注目しながら、古今東西の芸術に関心を寄せ、自らの文学世界にもそれらを取り込んだ芥川龍之介とその眼をとおした美の世界を紹介します。



..... Akutagawa Ryunosuke .....



..... Natsume Soseki .....



..... Suga Torao .....

芥川龍之介（一八九二―一九二七）

東京に生まれる。東京帝国大学（現東京大学）英文学科在学中より作家活動を始める。一九一五年に「羅生門」を発表。翌年「鼻」が漱石の激賞を受けて文壇に進出。卒業後は横須賀の海軍機関学校で英語教師を務め鎌倉に住む。一九一七年に第一短編集『羅生門』を刊行。一九一九年より文筆活動に専念する。芸術至上主義を追求し、豊かな教養と技巧に優れた短編小説の傑作を多数発表。時代の寵児となったが、一九二五年頃から心身が衰弱し、三十五歳で服毒自殺。

画像出典「芥川龍之介全集」（一九二七年、新潮社）より

夏目漱石（一八六七―一九一六）

東京に生まれる。帝国大学（現東京大学）英文学科を卒業。愛媛県尋常中学校、熊本第五高等学校の英語教師を務め、一九〇〇年から二年間、イギリスに留学。帰国後、第一高等学校と東京帝国大学の講師となる。一九〇五年に発表した「吾輩は猫である」が好評を博し、以後次々と話題作を発表。近代知識人の苦悩を描き、「こゝろ」など数々の名作を残した。美術愛好家としても知られ、作中に古今東西の美術作品が登場するほか、自らも絵筆をとった。

画像出典「漱石の思ひ出」（一九一八年、改定社）より

菅虎雄（一八六四―一九四三）

福岡県久留米に生まれる。帝国大学独逸文学科の第一回卒業生。大学在学中に漱石と出会う。一八八八年より鎌倉の円覚寺に参禅し「無為」の号を受ける。卒業後は熊本の第五高等学校などで教鞭をとる。一九〇三年、清国に招聘され、ドイツ語を教えるかたわら、書画の名士李瑞清と交友し書の道を深める。帰国後は第一高等学校のドイツ語教授に就任して鎌倉に暮らした。漱石の『文学評論』『社会と自分』、芥川の『羅生門』『傀儡師』の題字を手がけたほか、国内各地に揮毫が残る。

画像出典「酸漿無為 菅虎雄先生遺墨法帖」（一九二七年）より



芥川龍之介《水虎晚婦図》紙本墨画 日本近代文学館

「僕か？僕は超人（直訳すれば超河童です。）だ。」



菅虎雄《我鬼窟》1919年 紙本墨書 山梨県立文学館 \*2期



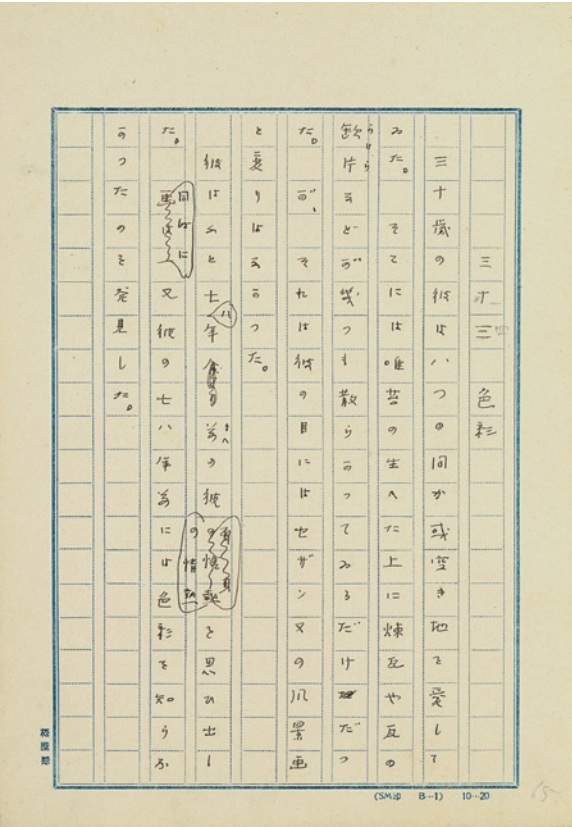
津田青楓《漱石と十一弟子》紙本著色 くまもと文学・歴史館 \*2期 ©Rieko Takahashi



中原梯二郎《若きカフカス人》1919年 ブロンズ 新潟大学



香取秀真《鳥銅鳳凰香炉》1911年 銅金 千葉県立美術館



芥川龍之介「或阿呆の一生 三十四 色彩」草稿 1927年 山梨県立文学館 \*1期



オダエILON・ルドン《若き日の仏陀》1905年 油彩・カンヴァス 京都国立近代美術館



小杉未醒《水郷》1911年 油彩・カンヴァス 東京国立近代美術館



夏目漱石《山上有山図》1912年 水彩・紙 岩波書店 \*1期



夏目漱石（著、装幀）『こゝろ』（1914年9月、岩波書店）県立神奈川近代文学館



菅虎雄『羅生門』題字（試し書き）1919年 紙本墨書 日本近代文学館